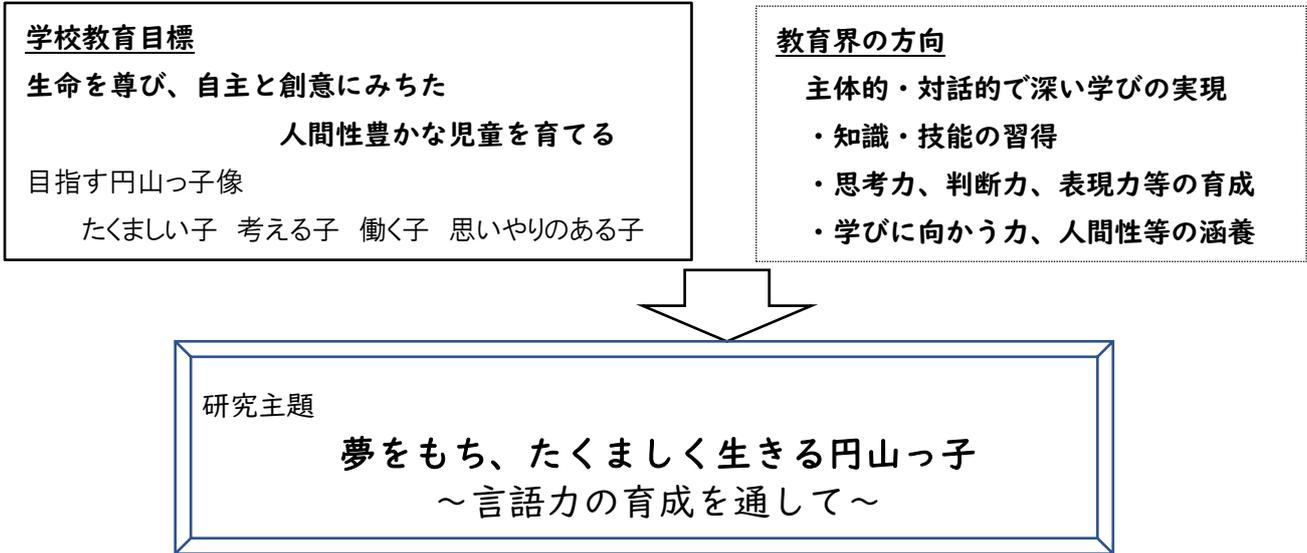


1. 研究の全体構想



2. 研究主題について

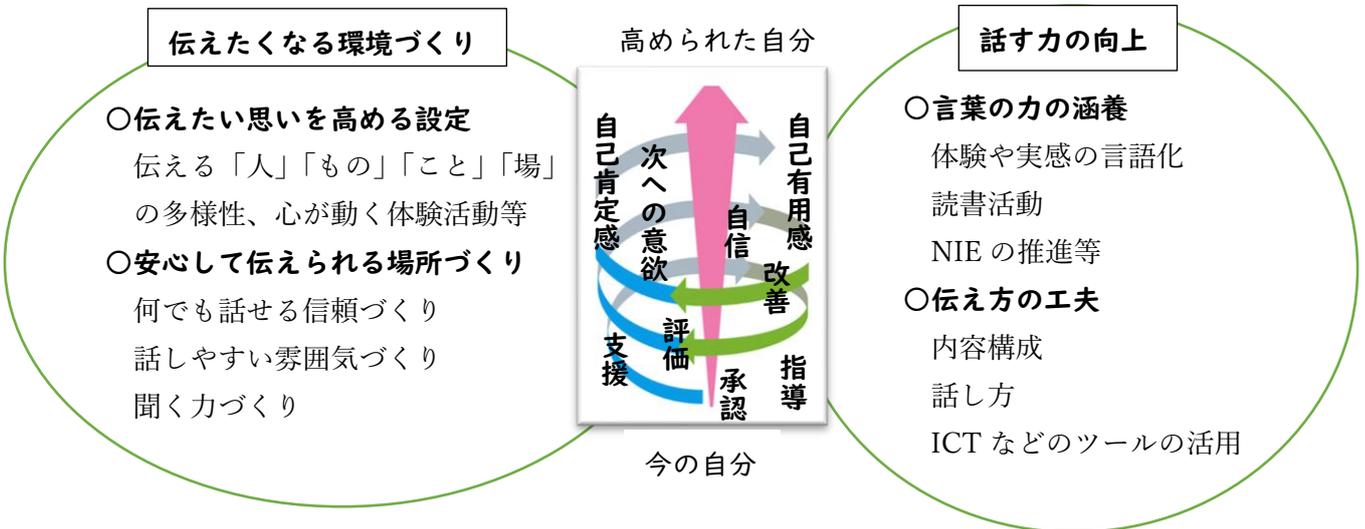
**夢をもち、たくましく生きるとは**

- ・なりたい自分を思い描き、主体的に行動する。(未来に夢をもつ)
- ・自分の良さや可能性を認識する。(自己を生きる)
- ・他者を思いやり、認め、尊重する。(他者と生きる)
- ・多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、これからの社会の創り手となる。(社会を生きる)

**言語力とは**  
 知識と経験、論理的思考、感性・情緒を基盤として、  
 自らの考えを深め、他者とコミュニケーションを行うために言語を運用する力

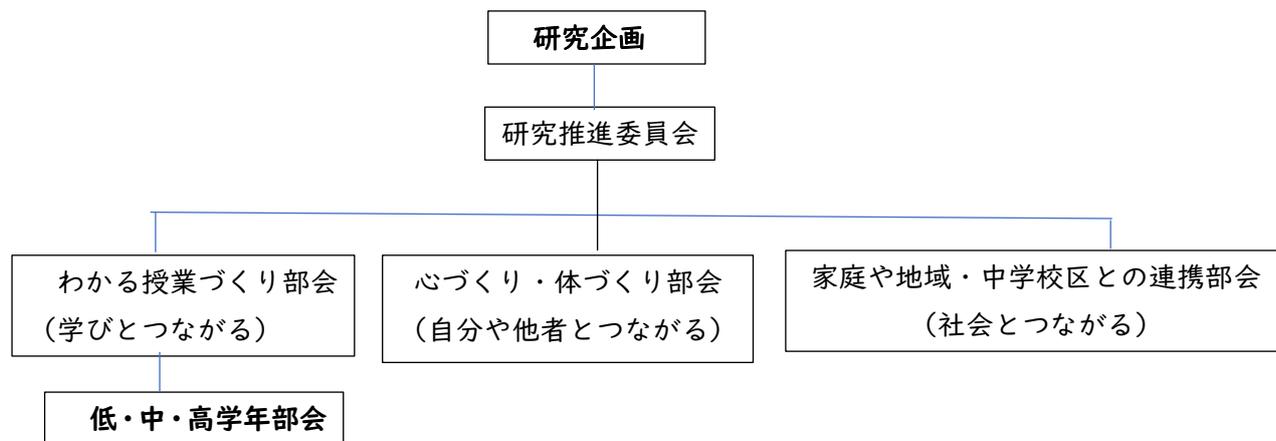
3. 今年度の研究仮説

伝えたくなる環境づくりと話す力の向上を図れば、言語力が育つだろう。



#### 4. 研究組織

スクールプランをもとに、「わかる授業づくり」、「心づくり・体づくり」、「家庭や地域、中学校区との連携」の3つの部会を柱に推進する。



#### 5. 研究の主な内容と方法

わかる授業づくり部会	心づくり・体づくり部会	家庭や地域・中学校区との連携部会
<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の実態から、伝えたい環境づくり・話す力の向上の取組を考える。 (5月)</li> <li>○各学年、支援学級で一つの提案授業をする。(指導主事訪問の提案授業と、話す力向上プロジェクトモデル学級はこれを含む。)</li> <li>○話す力向上プロジェクトに参加し、研修を積む。</li> <li>○ONIEの推進(読書タイムの活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもを多面的にみて、気付きを指導や支援につなげる。(複数の目でみる) また、週に1回児童理解の時間をとり、支援体制を整える。</li> <li>○道徳科を中心とした道徳教育を推進する。</li> <li>○「心げんきかな」アンケートを毎月行い、いじめや不登校の早期発見と未然防止を図る。</li> <li>○「おやくそく10」を実施し、基本的生活習慣の定着を図る。</li> <li>○人権教育の推進</li> <li>○運動習慣付けの推進</li> <li>○保健指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭や地域と関わる活動の再構成を図る。(生活科、総合、行事等)</li> <li>○キャリア教育の推進</li> <li>○中学校区で連携した教育活動を実施する。</li> <li>○スタートカリキュラムを活用した園小接続を推進する。</li> <li>○異学年交流の企画・運営</li> <li>○HP発信の充実</li> </ul>

#### 6. 研究の検証

3つの部会を柱に、各学年の取組をまとめ、成果と課題を学期末に振り返る。次年度の取組については、研究推進委員会で検討する。

## 7. 研究計画

### 【提案授業】

時期	部会	教科(単元名)
6月 3日(金)3時間目	高学年	外国語(How is your school life?)
6月28日(火)指導主事訪問	中学年	算数(垂直・平行と四角形)
7月11日(月)	4・5・6・7組	自立活動(校外学習の計画を立てよう)
9月 7日(水)	中学年	国語
9月	低学年	算数
9月	低学年	国語
11月	高学年	総合(アルバ・エデュモデル授業)

### 【話す力の向上プロジェクト（一般社団法人アルバ・エデュ監修）の研修】

期日	内容
4月12日(火)	担当者打ち合わせ（オンライン）、活動内容の確認と今後の予定について。
5月25日(水)	教員研修（60分）「話す力がなぜ今大切なのか」
6月 9日(木)	児童アンケート実施（5年）
6月15日(水)	モデル授業（5年で2コマ）＋教員研修「話す力」と「心理的安全な環境づくり」
10月	モデル授業（5年3組で2コマ）＋教員研修「指導案作成×プレゼン」
11月	研究授業（5年3組）＋懇談会

※効果測定データ回収

### 【その他】

- ICT活用等のミニ校内研修を随時行う。
- 毎週金曜日、終礼後に児童理解を行う。

## 8. 研究過程

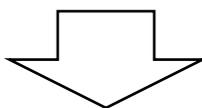
期日	組織	内容
4月4日(月)	研究推進委員	今年度の研究の方向について
4月11日(月)	全体会	今年度の研究について、学びのルールの確認
4月27日(水)	三部会	今年度の取組について
5月25日(水)	現職教育	話す力の向上プロジェクト（アルバ・エデュ監修）
6月3日(金)	高学年	6年提案授業（外国語「How is your school life?」）
6月15日(水)	現職教育	話す力の向上プロジェクト（アルバ・エデュ監修）
6月21日(火)	現職教育	水難事故に備えたAEDの使用（講師：消防署員）

## わかる授業づくり部会の取組

研究主題

夢をもち、たくましく生きる円山っ子  
～言語力の育成を通して～

※言語力…知識と経験、論理的思考、感性・情緒を基盤として、自らの考えを深め、  
他者とコミュニケーションを行うために言語を運用する力



今年度の研究仮説

伝えたくなる環境づくりと話す力の向上を図れば、言語力が育つだろう。

各学年の取組

1年

(1) 「言語力」についての実態

- ・基礎的な言葉遣いは身に付いているが、単語で話す児童が多い。また、敬語など相手に合わせた適切な言葉遣いができない児童もいる。
- ・語彙は少ないが、積極的に話す児童が多い。
- ・話を聞こうとする思いはあるが、集中力が続かない。

(2) 仮説について年間を通しての取組

A 伝えたくなる環境づくり

○伝えたい思いを高める設定

- ・国語で学習した物語文の紙芝居を作ったり、生活科の「がっこうたんけん」で見つけたものを伝え合う発表会を行ったりするなど、単元の最後に伝え合う活動を設定することで話す機会を増やし、伝えることの楽しさを感じることができるようにする。
- ・課題や発問を精選することで、児童の興味関心を引き出すことができるようにする。

○安心して伝えられる場所づくり

- ・全体での発表だけでなく、ペアやグループなど少人数での伝え合いを行う。
- ・朝の会のスピーチでは話型や5W1Hの質問の仕方を掲示し、自信をもって話すことができるようにする。
- ・話している人の方を向き、目を見て心で話を聞くことを習慣にし、関心をもって聞くことができるようにする。

## B 話す力の向上

### ○言葉の力の涵養

- ・ひらがなの学習で言葉集めを行い、語彙を増やす。
- ・算数の問題文に線や波線を引き、足し算や引き算のキーワードになる言葉を意識させる。また、その言葉の意味をしっかりと理解できるように、算数的活動を取り入れたり、具体物でイメージをもたせたりする。ペアで足し算や引き算になるわけを話す場面を取り入れる。
- ・生活科で生き物の観察をしたりする際に使う、様子を表す言葉を集め、必要に応じて掲示し、言葉を増やしていく。
- ・アニメーションを取り入れた絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、言葉や読書への関心を高め、主体的に読もうとする態度を養う。

### ○伝え方の工夫

- ・時と場合に合った声の大きさや話す速さなど、聞き手を意識した話し方を身に付けさせる。
- ・音読の様子を動画に撮り、声の大きさや速さなどを振り返ることができるようにする。
- ・国語科で学習する「どうしてかというところからです。」の話型を使って話す機会を様々な場面で取り入れることで、自分の思いを伝えるための話型を身に付けさせ、自信をもって話すことができるようにする。

## 2年

### (1) 「言語力」についての実態

伝えたい思いはあっても、語彙の少なさや言葉の意味を正しく知らないために、話している途中でうまく伝えられなくなることがある。また、経験の少なさからか、問われていることの意味が分からず、言葉で返すことができない場合もある。

### (2) 仮説について年間を通しての取組

#### A 伝えたくなる環境づくり

##### ○伝えたい思いを高める設定

- ・学んだことが活かされる課題や自分事として捉えられるような発問を工夫し、意欲を高める。
- ・単元のゴールに、様々な発表の場を設定し、内容を練り合うためのグループやペア活動を充実させる。

##### ○安心して伝えられる場所づくり

- ・あいさつや「ありがとう」「ごめんね」などの小さな言葉がけをし合い気軽に話ができる関係づくりをする。

## B 話す力の向上

### ○言葉の力の涵養

- ・国語科や生活科を中心に国語辞典や図鑑で調べることで、その意味を実感とともに理解できるようにする。また、各教科で使う用語をしっかりと押さえて適切に使う意識を高めていく。
- ・週に一度は図書室へ行き、読書活動を充実させる。図書室の本を調べ学習で活用する。

### ○伝え方の工夫

- ・国語科の授業を中心に、説明や物語、感想、日記、クイズなど様々な文の型や接続詞を学び、日記やテーマスピーチで使っていく。
- ・タブレットを使って発表資料を提示したり、相手が分かる言葉や順序を選んだりすることで、分かりやすい伝え方について理解できるようにする。

## 3年

### (1)「言語力」についての実態

- ・語彙が少ないため、伝えたいことがあっても、上手く伝えられない。
- ・考えをもったり、考えを話したりするスキルそのものが未熟である。

### (2) 仮説について年間を通しての取組

#### A 伝えたくなる環境づくり

### ○伝えたい思いを高める設定

- ・興味関心を引くような課題設定を工夫する。
- ・毎時間の始めに単元のめあてと本時のめあてを明らかにすることで、何のためにこの時間学んでいくのかを意識付けさせる。
- ・まとめの場面でお互いに考えや意見を聞く場を設定し、学習をする必然性をもたせる。

### ○安心して伝えられる場所づくり

- ・話すとき、聞くときのルールを定着させる。(友達の意見と比較して、自分の意見を伝えられるようにする。～に似ています。～に付け加えます。)
- ・お互いを認める場を成立させていくために、日頃からお互いの考えを聞く場を設定し、褒めるなどの自己肯定感を高めるようにしていく。

## B 話す力の向上

### ○言葉の力の涵養

- ・読書活動を充実させる。読書をする機会を増やす。
- ・国語の教科書にある「言葉の宝箱」を取り上げるなどしていろいろな言葉に出会う機会をつくる。
- ・分からない言葉が授業ででてきたら、辞書で引かせるようにする。

### ○伝え方の工夫

- ・聞き手に伝えることを意識して話す内容を考え、スピーチをする。
- ・タブレットでの資料を使って、発表などに取り組む。

## 4年

### (1)「言語力」についての実態

- ・すらすらと音読するようになって、文章の内容をしっかりと理解しているわけではない。
- ・話型があるときは考えや理由を表現しやすくなっているが、ない場合には戸惑う児童が一定数いる。
- ・相手に伝えたい、表現したい思いはあっても、的確に言い表す言葉が見い出せないために消極的になる児童がいる。

### (2) 仮説について年間を通しての取組

#### A 伝えたくなる環境づくり

##### ○伝えたい思いを高める設定

- ・好奇心や探究心が高まる課題設定をする。
- ・表現する際に聞き手や受け手の存在を明確にすることで活動に意義をもたせる。
- ・体験学習など、児童にとって伝えたくなる題材になる活動を設定する。

##### ○安心して伝えられる場所づくり

- ・話す・聞く場でのルールやマナーを定着させる。
- ・相手の話を受け止める寛容性を育てる。
- ・物事を多面的に捉えさせ、様々な見方や捉え方があることに気付かせる。

#### B 話す力の向上

##### ○言葉の力の涵養

- ・ことわざや慣用句の学習により、様々な表現に触れさせて理解させる。
- ・読書タイムに子ども新聞を読む機会を取り入れる。
- ・国語辞典や漢字辞典を用いた学習では、用例にも着目して表現に取り入れやすくする。
- ・説明の仕方や話の順番の工夫など、伝え方に関する力のスキルアップを目指す。

##### ○伝え方の工夫

- ・手紙や新聞の書き方を扱う学習内容を、実践の場で活用する。
- ・タブレットの機能を利用し、資料提示・動画・作品の共有・鑑賞などで活用する。
- ・相手に伝わりやすい説明の仕方を学習し、表現に生かす。(話の順番や資料の選び方)

## 5年

### (1) 「言語力」についての実態

「発表したい」と意欲的に手を挙げる児童はいるが、発表者がいつも決まった児童であることが多い。手を挙げない児童を指名しても、使える語彙が乏しく、人前で自分の思いを伝えられずに固まってしまう場面が見られる。総じて、児童の多くが人前で話すための自信がなく、基本的な話型が身に付いていないことが課題であると考えられる。

### (2) 仮説について年間を通しての取組

#### A 伝えたくなる環境づくり

##### ○伝えたい思いを高める設定

- ・帰りの会や学級活動でスピーチ活動を取り入れる。テーマを工夫するなどして、本音で語る場を設定する。
- ・ノートに書いた児童の意見に赤丸を付けて視覚的に励ましたり、個別に声をかけて発表するよう促したりして、発表の自信を付けさせる。
- ・発表形態の多様化を図る。ペアやグループ、全体の場での発表だけでなく、オンライン上での意見の交流なども積極的に行い、自信をもって発表できる機会を増やしていく。

##### ○安心して伝えられる場所づくり

- ・聞き手の反応をまとめたものを掲示するなどして視覚化し、発表者が安心して伝えられる学級の雰囲気をつくっていく。

#### B 話す力の向上

##### ○言葉の力の涵養

- ・算数科や理科、総合的な学習を中心教科とし、発表だけで終わることのないように思考の過程を言語化させる。言語化の充実を図るために、「○○に目を付けた」「○○の考え方で解決した」などの話型を具体的に多様に示していく。また、子供たち自身が話型を修正して活用する姿が見られるように働きかけたい。

また、読書を通して、多くの言葉に触れる機会を増やし、語彙力の育成を図りたい。

##### ○伝え方の工夫

- ・原稿に頼らず、聞き手の目を見て自分の思いを伝える姿を目指して、発表者の目配りの仕方や内容に合った話型を選択できる力を養いたい。

## 6年

### (1)「言語力」についての実態

- ・自分の考えや気持ちを表すときに使用している語句が限定的であり、身に付いている語彙数は学年相応のレベルに達していないと思われる。言葉の意味を理解していない、理解していてもうまく使えない児童が多い。
- ・対話に意欲的に取り組もうとするが、自分の意見を他者の理解度を確かめながら伝えることができない児童が多い。また、他者の意見を聞いて、対話を続けることができない児童も多い。

### (2) 仮説について年間を通しての取組

#### A 伝えたくなる環境づくり

##### ○伝えたい思いを高める設定

- ・他者との違いが生まれる課題設定を意識し、「伝えたい」「聞きたい」と思えるような活動を充実させる。
- ・タブレットを効果的に活用させ、目的に応じて、調べたり、書き込んだり、まとめたりするなど、思考・表現する手立ての一つとさせる。総合的な学習では、プレゼン資料を作成し、発表する活動を行う。

##### ○安心して伝えられる場所づくり

- ・係活動を中心として、学級活動の中でさまざまな役割を任せ、自治的な組織運営をさせることで、自己有用感を高めさせる。

#### B 話す力の向上

##### ○言葉の力の涵養

- ・国語科や社会科を中心として、新聞の記事や教科書や資料集の図版を読み取り、課題に対する意見や根拠、感想を伝え合う活動を行ったり、国語ノートの裏面には、児童に身に付けさせたい言葉の一覧を貼らせ、そこから言葉を選ばせて活用させる活動を行ったりすることで、語彙数を少しずつ増やし、豊かな語彙を使いこなせるようにしていく。
- ・授業では、ペアでの考えを伝え合う活動を積極的にさせたり、帰りの会では、一日の振り返りを伝え合ったり、いろいろなテーマでスピーチをしたりする活動をさせたりするなど、言語活動の機会を充実させることで、話すことに自信をもたせ、積極的に伝えようとする姿勢を育む。

##### ○伝え方の工夫

- ・自己の考えを表現する活動のときには、話し方や聞き方を話型や文型として具体的に示し、その条件に沿って話したり書いたりさせることで、よりよい伝え方を意識させるようにする。
- ・黒板やモニターを使って発表させる機会を充実させ、聞き手の様子を見ながら配慮し、提示資料を指し示したり、それに書き込んだりするなどして、分かりやすく伝えることができるようにする。

## 4、5、6、7組

### (1)「言語力」についての実態

- ・自分の気持ちを言葉で表すことが苦手。
- ・語彙力が少ない。
- ・ストレートな表現で表現することが多い。

### (2) 仮説について年間を通しての取組

#### A 伝えたくなる環境づくり

- 伝えたい思いを高める設定
  - ・学級会や誕生日会、お楽しみ会などで自分のやりたいことを伝える場を設定する。
  - ・自立の時間にみんなの前で発表する場を設定する。(スリーヒントクイズでの問題作り、サイコロトーク)
- 安心して伝えられる場所づくり
  - ・帰りの会で1人1人が安心してスピーチができる時間を設ける。

#### B 話す力の向上

- 言葉の力の涵養
  - ・体験したことを伝える場を設定する。
  - ・読み聞かせをして、多様な言葉や表現に触れられるようにする。
  - ・楽しく言葉に触れられる活動を設定する。(図鑑作り、しりとりゲーム、新聞文字探し、写真に吹き出し)
  - ・製作活動などを通して、季節の言葉に触れる機会を設ける。
- 伝え方の工夫
  - ・興味があることについてタブレットでまとめ、発表する。
  - ・発表の様子を撮影し、振り返る活動を行う。